にじいろつうしん Vol.7

2024年10月発行　　文責　にじいろこどもクリニック　院長　相澤知美

　こんにちは、少しずつ涼しくなってきたせいか、風邪ひきさんが増えています。コロナやインフルエンザが流行しているというわけではありませんが、咳や鼻水がなかなか良くならない方が多いです。報道でも取り上げられている通り、今年は**マイコプラズマ感染症**の流行が認められます。2016年以来の流行で、2020～2023年はコロナウイルス感染に伴うマスク着用などもあり、他の感染症と同様にマイコプラズマの流行はほぼありませんでした。
　これからインフルエンザの流行シーズンに入りますし、今後も、いつ何の感染症が流行するのか分かりませんので、基本的な感染予防対策は皆さん続けてください。

💉インフルエンザワクチンの効果について💉

　10月より、インフルエンザワクチン接種をスタッフと力を合わせて行っています。今年から2～18歳の点鼻のインフルエンザワクチン接種も始まりました。インフルエンザワクチンは、市町村によって一部の小児年齢でも助成がありますが、任意接種の自費のワクチンとなります。点鼻のワクチンは今年は助成の対象にはなっておりません。
　ワクチンの効果ですが、注射のインフルエンザワクチンで6歳未満で2回接種した場合、「**発症予防**」としての「**有効率**」は 60%くらいだという報告があります（もう少し低い報告もあります）。「**有効率**」とは？ですが、接種しなかった人の発症率を基準として、接種者の発症率がどのくらい減少したかの割合です。有効率100%ではないので、接種しても発症する人はいます。また、ワクチン接種により肺炎、脳症などの「**重症化**」の予防効果があることが知られています。先日、5類移行後の新型コロナウイルスの死亡者数はインフルエンザの15倍というニュースがありました。コロナよりは少ないですが、特に高齢者ではインフルエンザも命取りとなる感染症です。小児も脳症を発症すると長期入院となったり後遺症が残ることがあります。注射のインフルエンザワクチンはウイルスが鼻や喉の粘膜に付着する「感染」を予防するというよりは、感染後の「発症」や「重症化」を予防する意味で有効と言えます。
　一方で、点鼻のインフルエンザワクチンは、「**生ワクチン**」といって、病原性を弱めたウイルスそのものを鼻腔へ直接接種するため、鼻粘膜で免疫が出来て「**感染予防**」効果も期待できます。痛みも無く、接種回数も1回、免疫効果が長くもちます。注射が苦手で病院へ連れていくだけでも大変💦という場合は良い選択肢だと思います。ただし、接種後にインフルエンザ様の症状が出たり、喘息や免疫疾患などで接種が出来ないなど注意事項があります。
　日本小児科学会では、注射と点鼻の効果はどちらが優位だということは無く、同等に推奨するとしています。日本では初年度のため、来年以降は有効性や副作用が更にはっきりわかると思いますので、最新の情報がありましたらお知らせします。

ただいま流行中の感染症

🌈**手足口病**
　夏から流行が長引いています。
🌈**マイコプラズマ**
　園児から高校生まで幅広い年齢で認められます。
🌈**溶連菌**
　昨年から今年にかけて大流行し、夏にいったんおちつきましたが再度認められます。

11月の予定

11月19日（火）　17:00まで
（16:30予約まで）

11月20日（水）　11:00まで
（10:30予約まで）